

台風15号の接近と通過にともない、関東地方南部や伊豆諸島を中心に暴風、大雨となりました。木が倒れたり、建物が壊れたりする他、広い範囲で停電するなどの被害がありました。

大雨が降ると土砂災害の危険が高まります。さらに、地中に水がたまっていると、大雨がやんだあとも土砂災害の起こりやすい状況が続くことがあります。「大雨警報（土砂災害）」は、大雨によって土砂災害がいつ起きてもおかしくないような危険な状況になったときに、都道府県と気象庁が共同で発表する警報です。図4は台風15号が通過したときの、1時間あたりの降水量を地図上に色で表したものです。①～⑥は時刻の順に並べてあります。

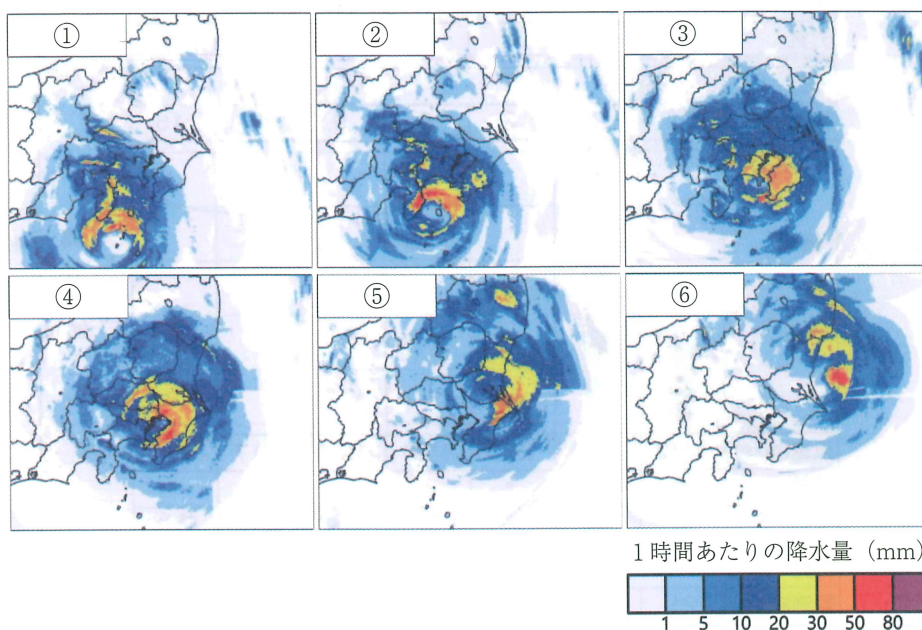
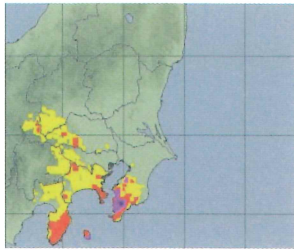
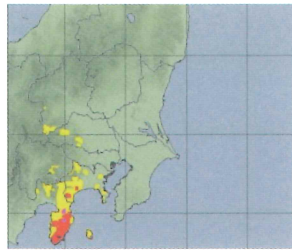


図4 台風15号 降水量の移り変わり
 気象庁 令和元年度 災害時自然現象報告書より作成
 (次のページの図A～Fも同じ報告書より作成)

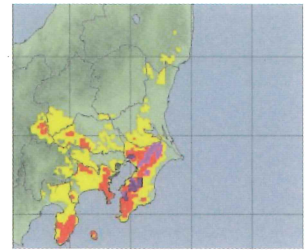
(4) 図A～Fは、図4の①～⑥のいずれかの時刻における「大雨警報（土砂災害）」の危険度を地図上に色で表したものです。図A～Fを、図4の①～⑥の時刻の順に並べなさい。



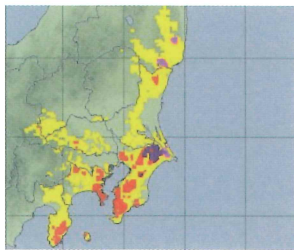
A



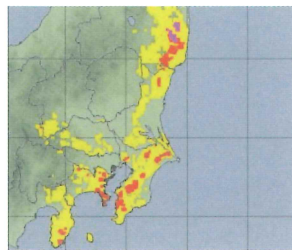
B



C



D



E



F

